

令和3年10月25日

妊産婦のみなさまへ

日本産科婦人科学会 理事長 木村 正
SARS-CoV2（新型コロナウイルス）感染対策委員会委員長 川名 敬

—新型コロナウイルスの安全性に関する最新情報—

新型コロナウイルスの普及とともに、新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきましたが、また第6波が来る可能性も否定できません。わが国において、妊婦さんは時期を問わずワクチンを接種することをお勧めします。また、授乳期や妊娠を計画されている方も同様にワクチンを接種することをお勧めします。本年10月に新型コロナウイルスワクチンの妊婦さんへの接種の安全性に関するデータが発表されましたので、お知らせいたします。

【報告の内容】

- ・2020年に妊娠14週未満の流産となった妊婦さんを調べたところ、新型コロナウイルスワクチンを5週間以内に接種していた約1000人の妊婦さん、もしくは3週間以内に接種していた約600人の妊婦さんでは、接種していない妊婦さんと比べて、流産となった率に差がありませんでした（ノルウェーのデータ）。
- ・妊娠初期に新型コロナウイルスワクチンを接種しても、それによって流産を引き起こすことはないと考えられ、妊婦さんへの接種の安全性が確認されました。

このように妊娠初期であっても、新型コロナウイルスワクチンを接種することで流産しやすくなることはないと考え、安心して接種を受けてください。

【参考資料】

1) Covid-19 Vaccination during Pregnancy and First-Trimester Miscarriage, New England Journal of Medicine, 2021

<https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMc2114466?query%3Dtoc%26cid%3DNEJM%2520eToc,%2520October%252021,%25202021%2520DM395995%26bid%3D678596235&source=gmail-imap&ust=1635382401000000&usg=AOvVaw0CBcB_DtoYnUbn6jY17D9>